

令和4年度第2次補正予算行政事業レビューシート (文部科学省)

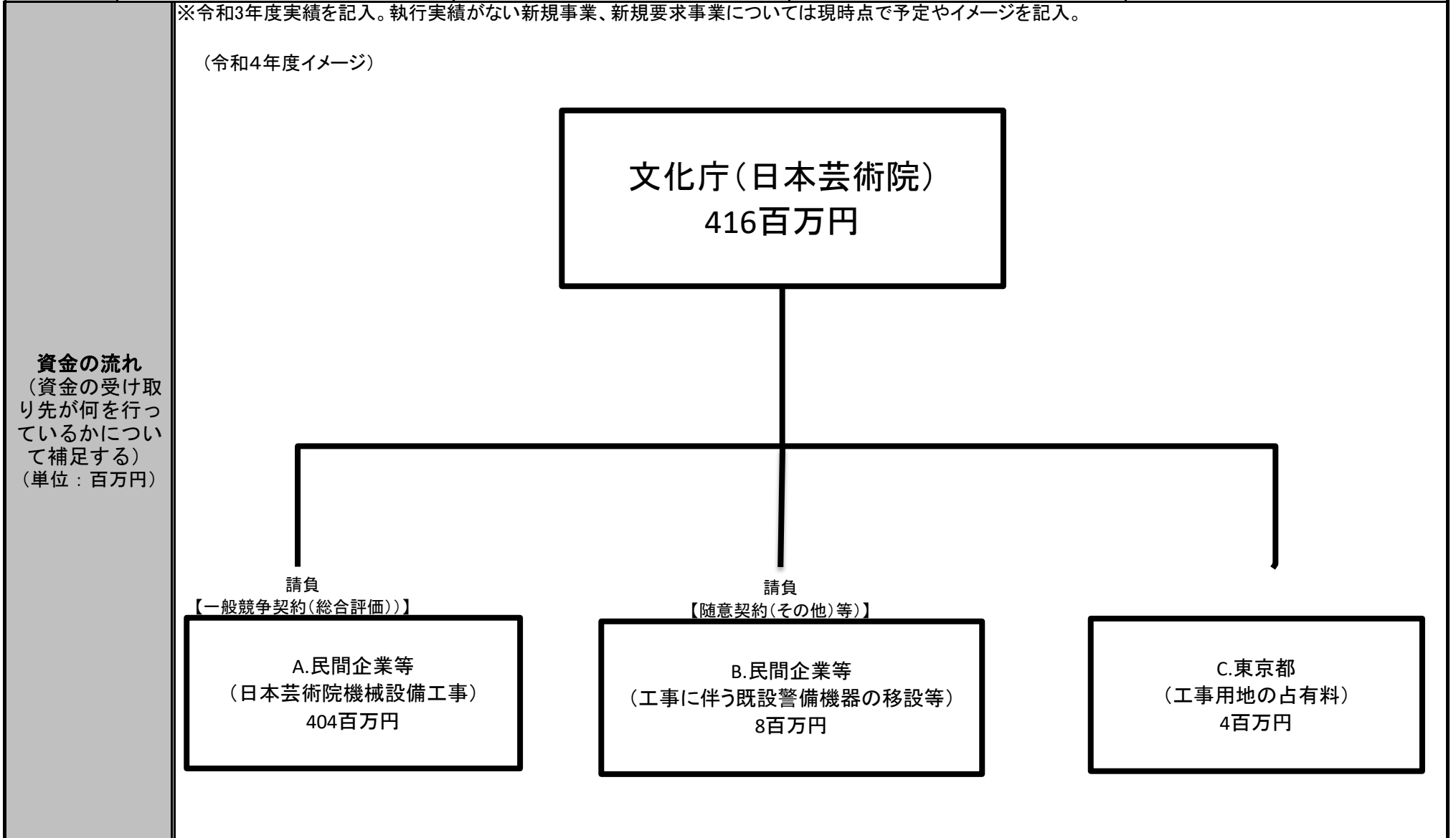
事業名	日本芸術院施設整備費			担当部局	文化庁		作成責任者		
事業開始年度	平成27年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	日本芸術院		参事官(芸術文化担当) 山田素子		
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	文部科学省設置法第23条 日本芸術院令			関係する 計画、通知等	-				
主要政策・施策	国土強靱化施策			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	日本芸術院会館の整備を行う。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	日本芸術院会館は、昭和33年に竣工して以来約60年以上が経過し、全体的に老朽化が進んでいる。職員や会議に出席する日本芸術院会員(大多数が高齢者)の安全を確保するほか、日本芸術院賞授賞式や所蔵作品展の開催時に、万全な安全対策・警備体制を講じるため、危険箇所等の改善を行う。また、会館は上野公園に設置されているため、公園利用者の安全性等の向上も併せて行う。								
実施方法	直接実施、委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
		補正予算	-	-	112	304			
		令和4年度 第2次補正予算	-	-	-	304			
		前年度から繰越し	67	65	-	112			
		翌年度へ繰越し	▲65	-	▲112	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	2	65	0	416			
	執行額	2	64	0	-				
	執行率(%)	100%	98%	-	-				
	当初予算+補正予算に対する 執行額の割合(%)	#DIV/0!	#DIV/0!	-	-				
令和4年度第2次 補正予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度 第2次補正予算	主な増減理由						
	施設整備費	299							
	施設施工庁費	4							
	計	304							
活動内容 (アクティビティ)	日本芸術院会員、職員、日本芸術院受賞式参列者、日本芸術院所蔵作品展の観覧者等の会館利用者に対し、安全・環境の向上を行う。								
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	老朽化による危険箇所等の 改善	是正される危険箇所等	活動実績	件	0	1	0	-	-
			当初見込み	件	1	1	-	2	0
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	工事の予算額/改修工事一式		単位当たり コスト	千円	0	64,045	-	207,612	
			計算式	予算額/ 一式×件数	0円/一式	64,045千円/一式	-	415,231千円/一式×2件	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度
	老朽箇所の改修による安全・ 環境の向上	安全・環境が向上される箇所	成果実績	件	0	1	0	-	-
			目標値	件	1	1	-	-	-
			達成度	%	0	100	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	日本芸術院会館 改修履歴								

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	-		
		施策	いずれの政策にも該当しないもの	政策評価書 URL -	
	新経済・財政再生計画改革工程表 2021	取組事項	分野:		
			(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:		
		該当箇所			
事業所管部局による点検・改善					
		項目	評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性		事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、安全性の確保という国民や社会のニーズを反映している。	
		地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、日本芸術院が管理する会館の改修であり、地方自治体や民間等に委ねることはできない事業である。	
		政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業を実施しなければ、日本芸術院の施設の安全確保に支障を来す恐れがあるため、必要不可欠なものであり、優先度の高い事業であると考えられる。	
事業の効率性		競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	直近の令和2年度の本事業については、一般競争契約(総合評価方式)を実施し、2社以上の応札があり、競争性が確保された。 「設計意図伝達業務」については、工事受注者との打合せや設計図書を補完する説明図及び詳細図等の作成、設計意図の伝達に係る施工図の確認及び基本性能に関する対応等であり、設計業務の延長であるため、本業務以前に実施設計業務を実施した有限会社エーアンドエー構造研究所と随意契約を締結した。	
		一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	「設計意図伝達業務」については、随意契約(少額)であるが、複数者から見積書を徴取することで、競争性が確保された。	
		競争性のない随意契約となったものはないか。	有		
		受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-	
		単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	単位あたりのコストについては、本事業の計画に即し、市場調査や業者からの参考見積書などを勘案し算出したため妥当である。	
		資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	本事業の目的は、会館の補修であり、その目的に真に必要なとなる費目・用途に限定して使用した。	
		不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	令和4年度の本事業については、令和3年度補正予算によるものであり、時期的に令和3年度中に実施が不可能であったため、繰り越しを行ったものであり、妥当である。		
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	本事業の実施にあたっては、現場調査やヒアリング・打合せを重ね、より効率的なものとなるよう入念な計画を立てて実施した。		
事業の有効性		成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	直近の本事業においては、外塀改修工事の本体部分が令和2年度に繰越しとなったため、令和元年度における成果実績は無かったが、令和2年度に事業が完了し、その成果実績は、成果目標に見合ったものとなった。	
		事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-	
		活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	直近の本事業においては、外塀改修工事の本体部分が令和2年度に繰越しとなったため、令和元年度における活動実績は無かったが、令和2年度に事業が完了し、その活動実績は、見込みに見合ったものとなった。	
		整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	安全・環境が向上した施設として十分に活用されている。	

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				-
	事業番号		事業名		
			-		

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成23年度	-			
平成24年度	-			
平成25年度	-			
平成26年度	-			
平成27年度	-			
平成28年度	-			
平成29年度	-			
平成30年度	430			
令和元年度	文部科学省 - 0430			
令和2年度	文部科学省 0432			
令和3年度	2021 文科 20 0456			



A.			B.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
施設整備費	日本芸術院機械設備工事	404	施設施工庁費	工事に伴う既設警備機器の移設等	8
計		404	計		8
C.			D.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
施設施工庁費	工事用地の占有料	4			
計		4	計		0

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

